



【坂本の学区】

坂本は大津市の北部に位置し、比叡山麓の一角の美しい琵琶湖が見える丘陵地にある。また、坂本学区は古くからの文化財、旧跡も多く、石積みの町としても有名である。四季それぞれに趣があり、訪れる観光客も多い。令和6年3月、坂本小学校は開校150年を迎える。児童数589名（令和5年10月1日現在）

【坂本コミュニティの大目標（学校・地域・家庭）】

150周年を機に、学校・地域・家庭が連携して  
自立した子どもを育成する  
～自分大好き 友達大好き さかもと大好き～

【学校教育目標（目指す子ども像）】

□「心豊かに たくましく」  
様々な変化を前向きに受け止めて自己実現できる子

□重点事項

○さいごまでやりぬく

・『5つの心得』の徹底  
(あいさつ・はきもの・そうじ・時間・人)

○からだをきたえる

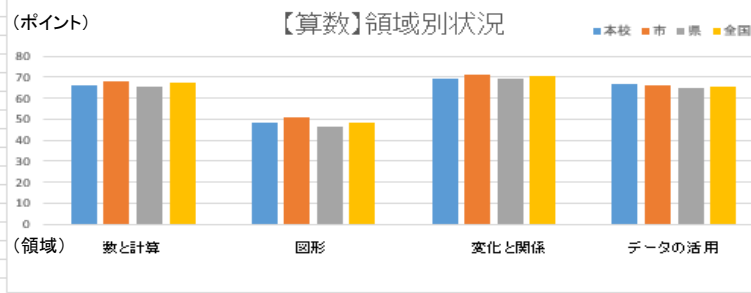
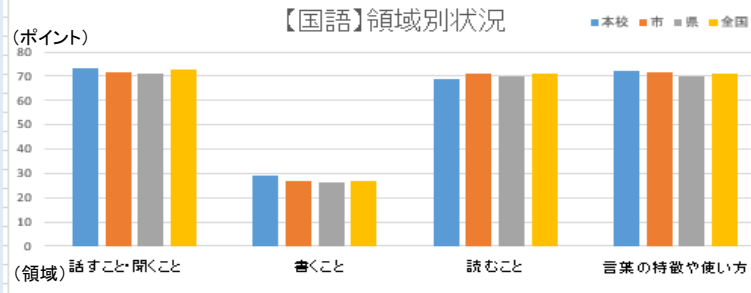
・体育授業の充実 ・日常の運動習慣  
・健康教育、食育 ・安全・防災教育

○もともとめまなぶ

・坂本小スタンダード学習の発展  
・読書力を高める  
・書いて表現する力をつける

○とも（人）をたいせつにする

・インクルーシブ教育の充実  
・開かれた学校の実現（150周年を機に再び）  
・特色ある学校づくり（地域・保護者との協働実践）  
(歴史・人・文化と触れ合う)

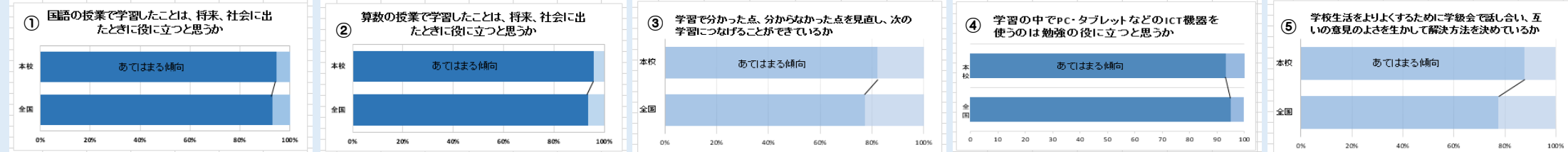


【学力調査の結果から見えてくる本校の現状】

国語科においては、近年の課題であった記述式問題の正答率が3問中2問で全国平均を上回った。その2問については、どちらも複数の資料(グラフ・図を含む)からわかったことを、条件にそってまとめるというものである。本校が授業づくりで大切にしている「文章で書いて表現する活動」の成果であり、無回答率(問題の答えを何も記入しない状態で提出する割合)が、全国、県、市の平均を大きく下回っていることから、記述式の問題に対する苦手意識がなくなってきたと考えられる。しかし、資料からわかったことに加え、「自分の考え」をまとめる問題では平均を下回った。資料をまとめることに字数を使い、自分の考えが記入されていなかったり、自分の考えだけが記入してあったりといった回答が目立った。限られた字数の中で複数の条件を満たし、考えをまとめる活動や、課題に対して「自分ならどうするか」を考え、表現する活動を今後さらに取り入れていきたい。

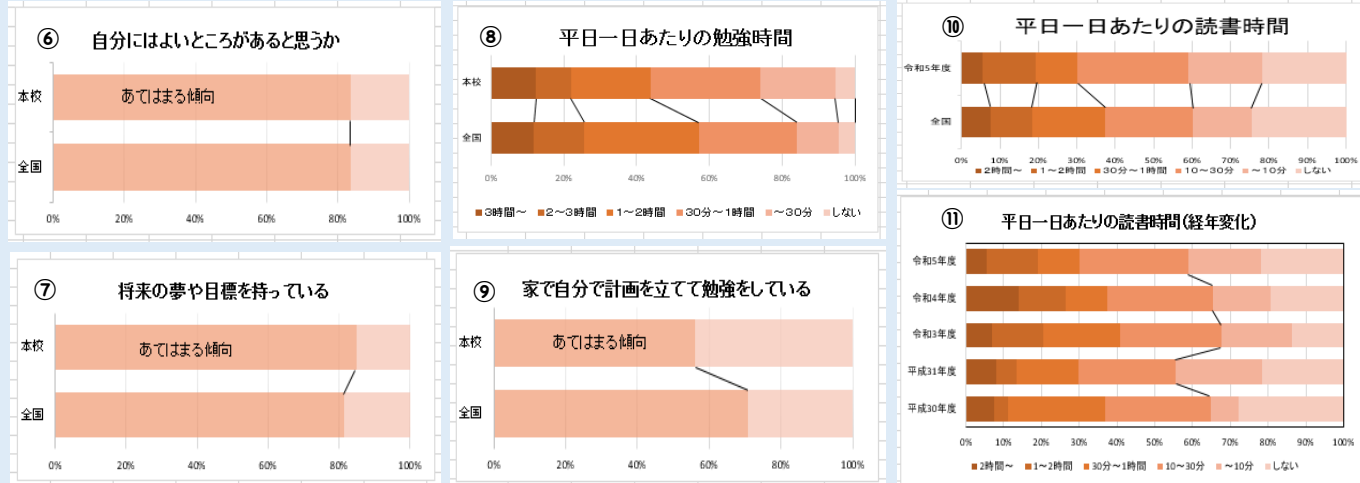
算数科においても、式と答えだけでなく、求め方(考え方)を記述する問題や、回答した理由を記述する問題に全国平均より高い正答率が見られた。普段の学習の中で、なぜ、その答えになったかという自分の思考の流れを文章や図等で表す活動や、考えを交流する活動を大切にしておき、その成果だと考えられる。

また、計算問題や図形の性質を問う問題に高い正答率が見られたことから、基礎的な問題を解く力が育ってきている。しかし、台形の意味や性質を理解しているか問う問題や、割り算の筆算について、計算途中の各段階の商の意味を考える問題の正答率が低かったことから、当該学年の指導方法の検討と共に、今後も基礎的な問題だけでなく、様々な問題形式に慣れていく学習活動も必要である。



【質問紙調査から見えてくる本校の特徴(学習に関すること)】

・「授業で学習したことが将来、社会に出たときに役に立つと思うか」【グラフ①②】の質問に対して、国語科、算数科共に「そう思う」と答えた児童の割合が全国と比べて高く、「授業で学んだことを次の学習につなげているか」【グラフ③】も「そう思う」と回答した児童の割合が高いことから、継続的に、向上心をもって前向きに学習に取り組んでいる児童が多いことが分かる。本校が進める「坂本小スタンダード学習」(全学年で共通した系統性学習スタイル)での授業展開が一定の効果を上げていると考えられる。  
・「学習の中で ICT 機器を使うのは勉強の役に立つか」【グラフ④】の質問は、役に立つと答えた児童が9割を超えていたものの、全国平均は下回った。高学年はほとんどの教科でタブレットを取り入れて学習を進めている。児童にとって、当たり前のツールになっている一方で、学習効果がどれほどあるのかということや、ノートとの併用方法が確立されていないことなど、課題は残る。より効果的な活用法の研究を進めていきたい。  
・本校では学級活動(学級会)で学びの基礎となる話し合う力の向上と、子どもたち同士が意見を交わし、問題を解決する協働的な課題解決能力の育成にも力を入れている。その経験を通して、どんな意見でも受け入れてもらえるという安心できる学級づくりができてきつたということが考えられる(グラフ⑤)。



【質問紙調査から見えてくる本校の特徴(生活に関すること)】

・自分にはよいところがあり、将来の夢や目標を持っている児童が多いことから、前向きに生活を送っており、自尊感情や自己肯定感が育っていることがうかがえる【グラフ⑥⑦】。このことを生かし、さらに主体的に学んだり、生活をより良くしたりしていく態度を育てていきたい。  
・全国平均に比べ、平日1日あたりの勉強時間が短く、家で計画的に学習している児童の割合が少ない【グラフ⑧⑨】。今後、学校と家庭が連携をしながら、宿題の量や内容などの見直しを行い、家庭でも意欲的に、自分で学習を進める力をつけていきたい。  
・本校で力を入れている読書活動では、質問紙調査【グラフ⑩】と、本校の過去の調査結果を比較した経年変化【グラフ⑪】から、全国平均に比べると数値は低いものの、過去5年間毎日10分から30分読書に親しんでいる児童が6割近くいることがわかる。また、1時間以上読書をする児童も2割近くいる。今後も読書活動をさらに充実させていきたい。

【全国学力・学習状況調査をもとにした重点取組事項】

- 〈学校での授業改善〉 ①「坂本小スタンダード学習」(全学年で共通した系統性学習スタイル)の継承・発展 ②自ら進んで学べる学習環境づくり、個の課題に応じた習熟度学習システムの更なる充実(ICTの有効的活用) ③語彙力を高め、条件に沿ったわかりやすい文章を書く力の育成 ④文や図、グラフなどから必要な情報を読み解き、それらを整理し、理解し、発信する力の育成
- 〈家庭での学習環境改善〉 学習の習慣化(反復練習による学習内容の定着化 課題別学習 家庭学習の目安:学年×10分間の共有 自主学習システムの活用 オンライン学習の習慣化)
- 〈学校・家庭・地域の改善〉 情報モラル学習の充実(個人情報保護・SNSの使い方等、ネット上でのトラブルを防ぐために) 読書活動の更なる推進 基本的な生活習慣やルールの徹底(5つの心得)